

2023年度 愛知県三河地区小中校長会CS研修

コミュニティ・スクール設置にあたって 校長のビジョン形成やマネジメントのあり方

～学校運営協議会づくりで考えたいこと～

2023年 10月 6日(金)15:00～

竜美丘会館

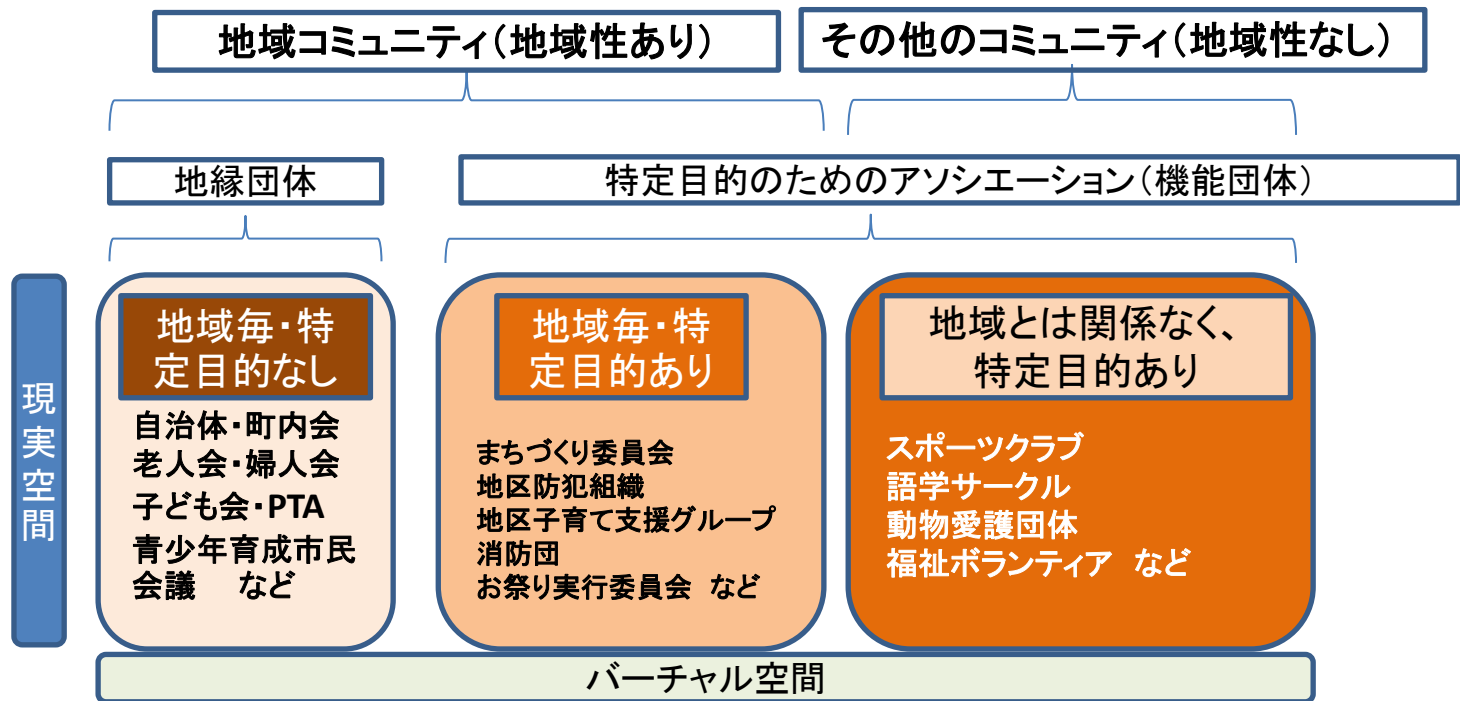
設置されて数年経過した 様々な課題を感じるCS

【訪問時によく出てくる話】

- 学校の担当者が会議の準備や資料の準備をしなくてはならないので負担感が多い。重ねて学校運営協議会委員の当事者意識をどう育てるのか。
- 学校運営協議会の委員は意見は求められるが何を話していいか不明。(年に3回程度学校運営協議会を開催しているが、案内が来て行くだけである)学校評議員会と何も変わらない。
- 設置時の学校長が定年退職し、新しい校長は何も言わないので活動が停滞している(複数でのビジョン形成)
- 学校運営協議会の議事内容は、全て学校が決めて教頭が司会で校長が一人話している。学校運営協議会は何をすところなのかわからなくなる。(学校運営協議会にかかる運営事務局体制の不十分さ)
- 教職員に聞いてみると、学校運営協議会は管理職が出ているので、どんな話し合いが行われているのかよくわからない。(地域と繋がるのがコミュニティ・スクールの推進だと感じている管理職の現状)
- 子どもたちや保護者にコミュニティ・スクールのことを聞いても内容は首をかしげ答えがない。
- 県のCS研修会で「社会に開かれた教育課程」のことを聞いたが、学校側からは何も話題は出てこない。
- 活動を設定したのは良いが、行政が準備する予算ではとてもまわらず、経費捻出に困っている。(学校ファンドの必要性)
- 「学校関係者評価」で大切な一回の協議会が終わり、以前の評議員会に戻る。(学校運営協議会としての年間評価が無い)

「地域コミュニティ」の崩壊危機を 「テーマコミュニティ」と「CS」で地域創生を

・ コミュニティの分類



目標及び主体性を生まない地域コミュニティへの不快感・否定感

●「学びの循環社会の形成 と 今日の子どもたちの教育課題を補完し合う体制づくり」
【生涯学習体系づくり】

学校だけで解決できない教育課題の解決及び学校・教育改革

学校(園)

(学校教育)
学校改革・教育改革
「社会に開かれた教育課程」の実践
様々な教育課題の解決

**コミュニティ・
スクールの
導入・推進**

地域

(社会教育)
地域創生
今日の地域課題や次世代育成
地域学校協働活動の推進

自治会・社会教育団体
企業・事業所 行政 等
地域コミュニティ(応援団等)
テーマコミュニティの
グループ

福祉団体・組織

小中・高校・大学・等

次代の地域の担い手育成

連携
協働

連携
協働

家庭の教育力の向上
(基本的な生活習慣の確立等)

縦割り行政の
改善必須条件

行政

(システム・マネジメントの向上等)

各公共施設

学校教育課

コミュニティ・スクール
地域学校協働活動

生涯学習課

コミュニティ・スクールとは……？

保護者や地域住民等が**一定の権限と責任**をもって学校運営に参加することで、育てたい子ども像、目指すべき教育の**ビジョンを共有**し、目標の実現に向けて**協働する仕組み**のある学校

地方教育行政の組織及び
運営に関する法律 第47条の5

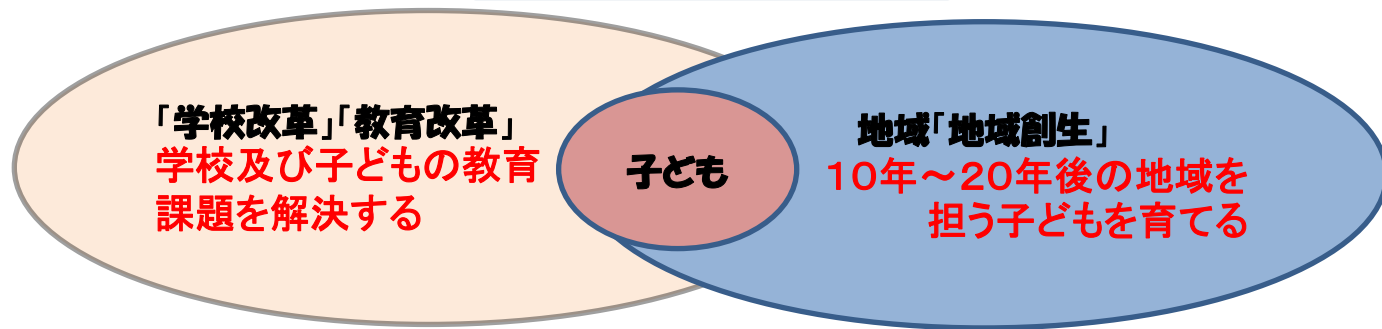
「**地域とともにある学校づくり**」を実現する学校

- × 学校運営協議会が設置できた、地域と繋がったらコミュニティスクールだと勘違いする学校【校長）が多い。
 - × 校内にある〇〇教育の校務分掌の一貫と捉えるなら設置しない方が良い。
 - × 学校主導の、年2～3回の学校運営協議会の開催なら、CSをやる必要は無い。
- * コミュニティスクールは、今日の社会背景を鑑み、子ども達のエ育課題、学校の課題等、学校だけでは解決しにくい課題を学校と地域が総掛かりで取り組む「学校改革」であり、地域の側面では、地域の次代の担い手を育てる「地域創生」の役割を果たすための制度です。

学校と地域の関係は？

- ・「双方向」と「対等」を大切に！

「熟議」と「協働」



学校での特別活動・総合的な学習等

学校運営協議会での学校と地域の協働活動

地域での子ども支援・体験活動

学校を応援するのでなく、学校の子、地域の子、それぞれの立場で子どもの課題を共有し、子どもを育てる目標を共有すること！！

地域学校協働活動とは

社会教育法第5条第2項

幅広い地域住民の参画を得て、地域全体で子どもたちの学びや成長を支えるとともに、「学校を核とした地域づくり」を目指して、地域と学校が相互にパートナーとして連携・協働して行う様々な活動

地域学校協働活動は、学校と地域が目標を共有し、地域のプログラムに沿って子どもたちが活動する支援・体験型の活動。これは、CSへの初段階で、これらの中から、子どもたちの主体性・協働を育む活動へと深化させていきたい。

学校応援団・地域連携協議会等：学校から依頼された支援を提供する形態。及び、地域で子どもたちの支援・体験を実施する緩やかな組織

「学校評議員会」・「応援団・地域連携協議会〔仮称〕」・「地域学校協働活動」と「学校運営協議会」の違いの確認

・ 学校評議員会

「学校評議員会」から名称を変更しただけの「学校運営協議会」ならCS設置はしない方がよい

一人ひとりがそれぞれ、校長の求めに応じて、学校の教育目標や計画、地域との連携の進め方など、校長が行う学校運営について意見や助言を述べる

（評議員会は、校長が招集することに対し、CSは、協議会代表が招集）

・ 地域学校協働活動

地域の高齢者、成人、学生、保護者、PTA、NPO、民間企業、団体・機関等の幅広い地域住民等の参画を得て、地域全体で子どもたちの学びや成長を支えるとともに、「学校を核とした地域づくり」を目指して、地域と学校が相互にパートナーとして連携・協働して行う様々な活動。

（地域の次代の担い手を育てる、体験的・支援的活動：地域が主体）

・ コミュニティ・スクール（学校運営協議会）

学校と保護者や地域の皆さんがともに知恵を出し合い、学校運営に意見を反映させることで、協働しながら子どもたちの豊かな成長を支え「地域とともにある学校づくり」を進める法律（地教行法第47条の5）

（変化の激しいこれからの社会を見据え、子どもたちの「主体性」「協働」を高め「社会に開かれた教育課程」の実現から、学校と地域が目標を共有し協働で教育改革・地域創生を目指す）

CS設置準備【目標・人選】を進める上で考えたいこと

まずは、校長(教職員同意の上)が自校の「子どもたちにどんな力を付けたいか」。また、学校では手の届かない様々な子どもたちの現状を踏まえ地域のどんなリソースを求めたいのかビジョンを持ちたい。

- 準備会に地域の誰を招集するのか

- ①準備会委員＝学校運営協議会委員でなくていい。

- ②学校運営協議会の代表だけは、校長先生の一番の理解者、協力者・代弁者を選抜しておきたい。

- ③準備会＝学校運営協議会委員でないことを断り、「熟議」からはじめ、地域・学校・家庭・子どもの強みや弱みを出し合いまとめ、目指すべき目標を共有する。

- ④子どもの姿を客観的に受けとめ校長のビジョンに値する人物を数名選び、少人数でスタートも可(最低校長含む4名)(準備会では候補を挙げるだけ。決定は校長)

協議会は、子どもの課題解決に協働できる民主的な合意形成集団なので、多様な価値観を尊重出来る人物、PDCAが協働で出来る人物等を選出したい。ころころ人が代わる充て職、自治会役員、人の意見を否定する人等は、どんな立場であっても避けたい。

* 出来れば、協議会代表以外は、PTA及びPTAOBぐらいの地域の中堅的な立場の人を選任する方が長続きする。当初、地域学校協働活動を推進するためにも活動がしやすい。(テーマコミュニティで活動するグループ代表等)

準備会の行程で考え考えておきたいこと

- ①**準備委員会の委員選任**(学校運営協議会委員を兼ねることも可)教職員も管理職だけでなく、最小限の人数で参加させたい。
- ②準備委員会の開催(準備段階では学校がリード)
- ③**「熟議」**地域・学校・家庭・子どもの強み・弱みを出し合い、課題や目指すべき子ども像を共有する(**目標の設置**)*出来るだけ時間をかけて具体的行動目標を【学校の教育目標では、地域や保護者には理解しにくい】
- ④学校運営協議会設置に向けた**行程を共有**
- ⑤目標達成のための地域や学校が**出来ることを「熟議」**
- ⑥目標達成に向けて、学校運営協議会委員選出では**どんな人物を選ぶのか**
- ⑦取組や組織の**役割等を一枚の組織図**にしてみる
- ⑧学校運営協議会 **規則の検討**
- ⑨学校運営協議会委員を選任し、目標や学校運営協議会 **委員に何をして欲しいのか明確にし**お願いする
- ⑩発足会、住民、PTA等にこれから始めるCSについて**校長が説明会を実施(子どもたちにも担任から説明。児童会・生徒会でも共有し委員会の設置検討)**
- ⑪その他、委員の数はできれば**地域・性別・年齢バランス**を考慮する。また、**校長の役割とコーディネーターの役割も明確に**しておきたい。〈月一ミーティング必要〉
- ⑫学校運営協議会の**「運営事務局」**を学校と地域で設置しておく。(年間協議会の運営や目標達成に向けた年間及び数カ年展望も議論しておく必要あり)

「熟議」とは？

多くの当事者による「熟慮」と「討議」を重ねながら事業や政策を形成していく際

- ①多くの当事者（保護者・教員・地域住民等）が集まって
 - ②課題について学習・熟慮し、討議をすることにより
 - ③互いの立場や果たすべき役割への理解が深まるとともに（地域・学校の価値観の共有）
 - ④解決策が洗練され（行動を生み出す熟議に）
 - ⑤個々人が納得して自分の役割を果たすようになる
- というプロセスのことを言う。

【対等・双方向が原則】

学校がテーマ設定や司会進行を担うのではなく、各委員の進行で各委員が提案するスタイルを。【当事者意識を高める】

事業推進の「プロセス」を大切にしていきたい。【校長は、委員に「託す」力が必要】

熟議の効果：新しい教育文化の創造

- 正しく潤沢な情報のもと、色々な関係者が本音をぶつけ話し合い、結果を認識。そして、課題解決に向けて徹底的に議論をすることにより、社会的合意を編集・創造する。
- これらのプロセスを通じて、「市民一人ひとりが教育の担い手として当事者意識を持って教育に関わり、良い教育、良い社会を創る」という市民文化を醸成していく。
- それぞれの地域で、教育を考えるための「リアル熟議」が開かれるようになることで、市民が居場所と出番を確認するようになる。また、地域の繋がりが形成される。

民主的な会議の場の実現をめざす

「熟議」の際に気をつけたいこと

- 自分がどのような立場で出席しているのかを明確に。
- 自分の立場を踏まえ、自分に何が出来るのかを考えたい。
- 正反対の意見も尊重しながら、意見の根拠を明確にしていく。
- 課題の責任を他者や組織に転嫁しても何も始まらない。
「評価」と「批判」を間違えないようにしたい。
- できるだけ話題の焦点をしぼって話しをしていきたい。

《熟議例》 地域の子ども活動の弱点は？

- 招待型活動：なにもかも大人たちが準備
- 打ち上げ花火型活動：面白そうな行事を大人が用意
- 帳面消し型活動：一年交替の役員が去年をまねて実施
- おもらい型活動：お菓子やジュースで子どもをつる

地域行事を振り返り、教職員からの課題提起

《熟議例》ぶれてはならない子ども観 「良い子」ってどんな子を言うのでしょうか？

- ・ 地域・学校・家庭の大人は、どんな子どもを育てたいと思っているのでしょうか？
子どもが指示待ちに育ち、自分の考えや意見を主張出来ない現状
- ・ 多忙さの中で、自尊感情の育成や、自己肯定感の育成と言いながら、**ややもすると、「いつも笑顔で大人に忠実・従順」な子どもを、そして「失敗はしない、させない」子どもを目指していませんか？**

「あいさつはいつも明るくはっきり」「忘れ物は無し」「言われたことは確実に」
「仲間の中では決して主張せず周りに気遣い、思いやりを」

地域の抽象的な目標設定「子どもの健全育成」「早寝・早起き・朝ご飯」等の言葉は知って共有しているつもりだが、私たち大人はどんな子どもを目指しているのか、今一度問い直すべきでは！

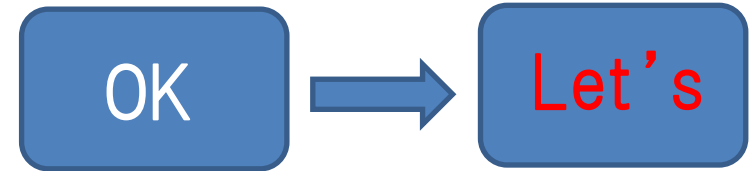
交通立ち番をしていた委員
が気づき課題提起

- ・日本の自立観
経済力も含め、何でも一人で出来るようになる事
- ・北欧の自立観

「自立とは、誰もが、地域社会のなかで、個別のニーズや意識、希望などを最大限尊重した最善の支援を受けながら、自らの人生の主体者として生きること」。また「共助の力」を持つことが出来ること。

【学校運営協議会の主な役割】

○学校運営に関する基本的な方針の承認をする。



○運営に関して意見を述べることができる。

○教職員の採用・任用に関して意見を述べることができる。

※教育委員会規則で定める……

学校運営協議会は、合意形成集団なので個人的な意見や多数決で決めるものではない。（運営事務局体制が必要）

子どもの「主体性」と「協働」重視！

・ ・ 学びのピラミッド理論 ・ ・

- If I hear it, I forget it.

聞くだけでは、忘れる。 5%

- If I see it, I remember it.

見れば、記憶する。(VTR等) 10%～20%

- If I do it, I understand it.

行動すれば、体得(理解)できる。75% 「地域学校協働活動」

- If I find(discover) it, I use it.

見つけた(主体的な行動から発見した)ことは、使いこなせる。90%
「コミュニティ・スクール」

ビジョンの視点から



学校・地域・家庭が理解し共有出来る「**具体的な行動目標**」が必要。まずは校内で具現化されているか、地域【地域・家庭が納得し行動できる目標の共有】

CS推進の「ビジョン形成」について

- 学校・地域は、CS推進の短期・長期のビジョン形成は出来ているのか。
 - ・学校教育目標をかざしているだけに過ぎないのでは？
 - ・地域・保護者にも理解出来る具体的な「行動できる目標」を！！
- 「熟議」で学校・地域が分担した「行動目標」を共有、それぞれが当事者としての役割が決まっているのか。
- CSと新学習指導要領は一体化出来るのか？
今日まで地域と積み上げた取組は、子どもの主体性と協働を担保出来たのか？

具体的行動目標は、教職員や子どもたちとも共有できているのか？
学校は、〇〇教育の数に押しつぶされていないか？

子どもにどんな力を育てるかを明確に

- 学校と地域・保護者が熟議し、子どもにどんな力が育つと良いのか、わかりやすい(具体的で行動できる)「目標」を設定する。また、「目標」に沿って、学校、地域のCS事業を見直す。(年度末の評価は、「学校関係者評価」ではない！)
- 「学校運営協議会」の運営システムを見直す。(運営のRPDCA及び財源獲得も含めて持続可能なシステムなのか？)
- ボランティアは、子どもに支援や体験を提供するだけでよいのか？(ボランティアの自立的で主体的コミュニティの醸成も創造しながら)

例) 地域と学校の共有目標を明確に！

子どもは、どこへ行っても「お客さん」
お客さんからの脱却する家庭・地域・学校づくり

- 家庭では、「お手伝い」でなく「家庭の一員としての仕事」を。
- 地域自治会では、子どもを「自治の一員」として向き合い託しましょう。
- 学校では、「自分のことは自分でします。」「自分で出来ることは手伝いません。」

学校・地域・家庭が子どもを育てる視点を共有し取り組みを積み上げる

家庭・地域にも理解しやすい「具体的な目標の設定」を「熟議」でめざそう

*「社会に開かれた教育課程」の実現は、学校の教育目標を踏まえた教科横断的な視点で

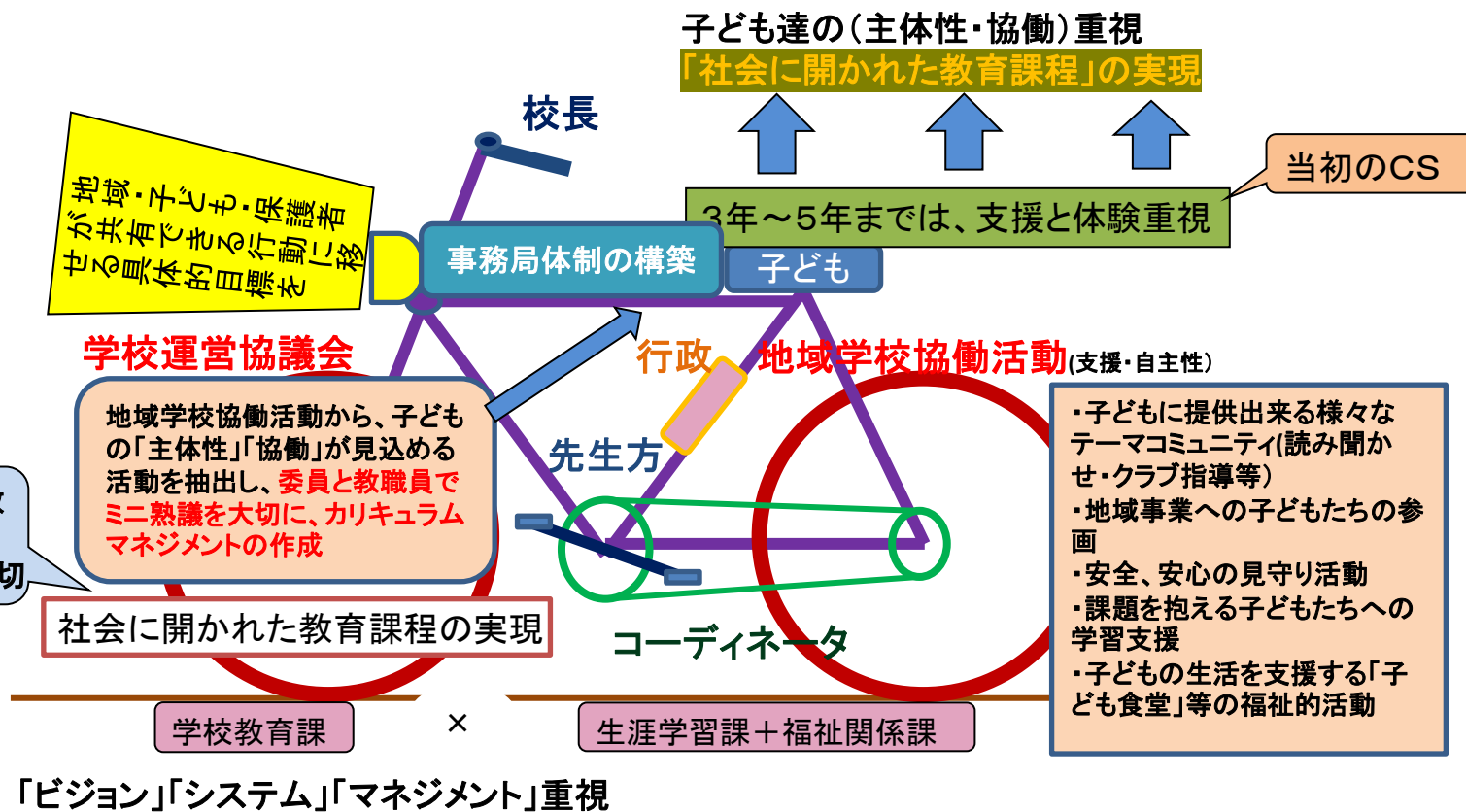
システムの視点から



次代の社会・地域の担い手である子どもたちに、これからの変化の激しい社会を生き抜く力が育つシステムに（教育改革と地域創生の課題が共有できるシステムに）認知能力も大切であるが、非認知能力のバランスも意識化（民主的思考や人権等）

コミュニティ・スクールで、「社会に開かれた教育課程の実現」のため 学校運営協議会と地域学校協働活動が一体となって推進するとは

この部分に着手出来てはじめてCSと呼べる



CSの推進実態を1枚の図に！！

財源確保

2010「岩根まちづくりフェスティバル」 「学校支援地域本部事業」 構造図

学校イメージ：草の根的なソーシャル・インクルージョンが機能する学校・地域づくり

湖南市教育委員会

CS指定8年目を迎え、学校・地域の人々のCSへの関わりも変化してきている。「子どもたちにどんな力を育てるのか」学校・地域の関係者がさらに熟慮を深めて、追究していきたい。

2007. 4. 1～

「地域と協働で子どもを育てる」
学校運営協議会 理事会
地域7 委員会代表3 PTA1
学校3 市教委1 「熟慮と研修」

岩根小学校 2010. 4. 1～
コミュニティ・スクール
「支援委員会」
区長会1 後援会1 岩根まち協1 PTA1
同窓会1 民生委員会1 理事長1：事務局

岩根まちづくり協議会

事務局

21世紀の岩根の子どもを育てる推進委員会
* 子どもの課題克服に向けて
* 「特別支援教育のPへの理解」
* 子どもの携帯等の実態と課題
* 学校評価のあり方の転換
* 推進委員の研修等

「子どもたちにとって、学校も地域の一部、地域・家庭も大切な学びの学校」

岩根の子どもたちの安全と安心を見守る推進委員会

PTA（地区長）と岩根まち協との連携及び他団体との調整

CSの次の担い手育成

特別支援保護者会の充実
委員会は少なめに

ボランティア推進委員会
* 各ボランティアの推進課題の解決
* ボランティア全体研修等
* ボランティアの発掘
* 各種ボランティア代表

教職員研修
CSのあり方や関わり方等の研修

県教委生涯学習課

地域コーディネーター

2008. 4～「学校支援地域本部事業」

市教育研究所

『歴史の部屋』岩根まちづくり協議会と協働

「子どもをお客さんにしない教育」（=子どもに力をつける）取り組みを！

学校支援
（学校で学ぶ）

クラブ活動11クラブ
指導者が地域の先生

図書館支援
整備・登録
読聞かせ

個別支援
（学習サポート）
特別支援
外国籍児童支援

放課後支援
キッズスポーツ
1～3年

情報ネット支援
学校HP
PTA HP

総合学習支援
ゲストティーチャー等（全学年）

環境支援
除草作業
剪定作業
飼育

生活相談支援
ネット（7才～9才）
生活・就労
人間関係等

積み上げ学習支援
「土曜教室」
保護者相談

1年生学校生活支援
清掃活動の指導、支援

食育推進
5年・6年
岩根地域健康推進委員

企業出前授業
PTA7～8
3年・5年
TOTO

「子どもをお客さんにしない」
地域支援
「子どもが地域に出て学ぶ」
「子どもを介して地域が繋がります」

下校見守り隊
スクールガード
各区ごとに工夫
（岩根まちづくり協議会とPTA等との連携）

ホテル育成事業
ホテルまつり
ホテル学習
河川清掃
ホテルを飛ばそう会

地域の居場所支援
・わかばクラブ
・低学年居場所づくり「あっとふぉーむ」

店長修業
3年・6年
地域の商店
地域課題の克服
地域歴史探索
高齢者とのふれあい事業

まちづくり協議会との連携
「岩根まちづくりフェア」
実行委員会に参画

外国籍保護者支援ネット
教育ガイダンス
メール相談

PTA実行委員会
・保護者の交流集会
・親子集団下校
・地域別親子環境整備作業
・携帯電話の功罪研修
・親子活動 ひびきあい活動
* 子どもたちの家庭生活の改善と積み上げ学習の推進

同窓会
5・5交流
学校施設活用
子どもたちとの交流事業

地域・学校・家庭で

C



C



C



C



C



和室等を活用した母子（乳幼児）の学びグループづくり

文部科学省生涯学習政策局事業 2011. 10. ～「社会教育による地域の教育力強化プロジェクト」における実証的共同研究
（公共型の学校づくり） 2013. 3. 子どもを基軸とした様々な地域の仲間づくり、システムづくりで地域の教育力の強化を！！

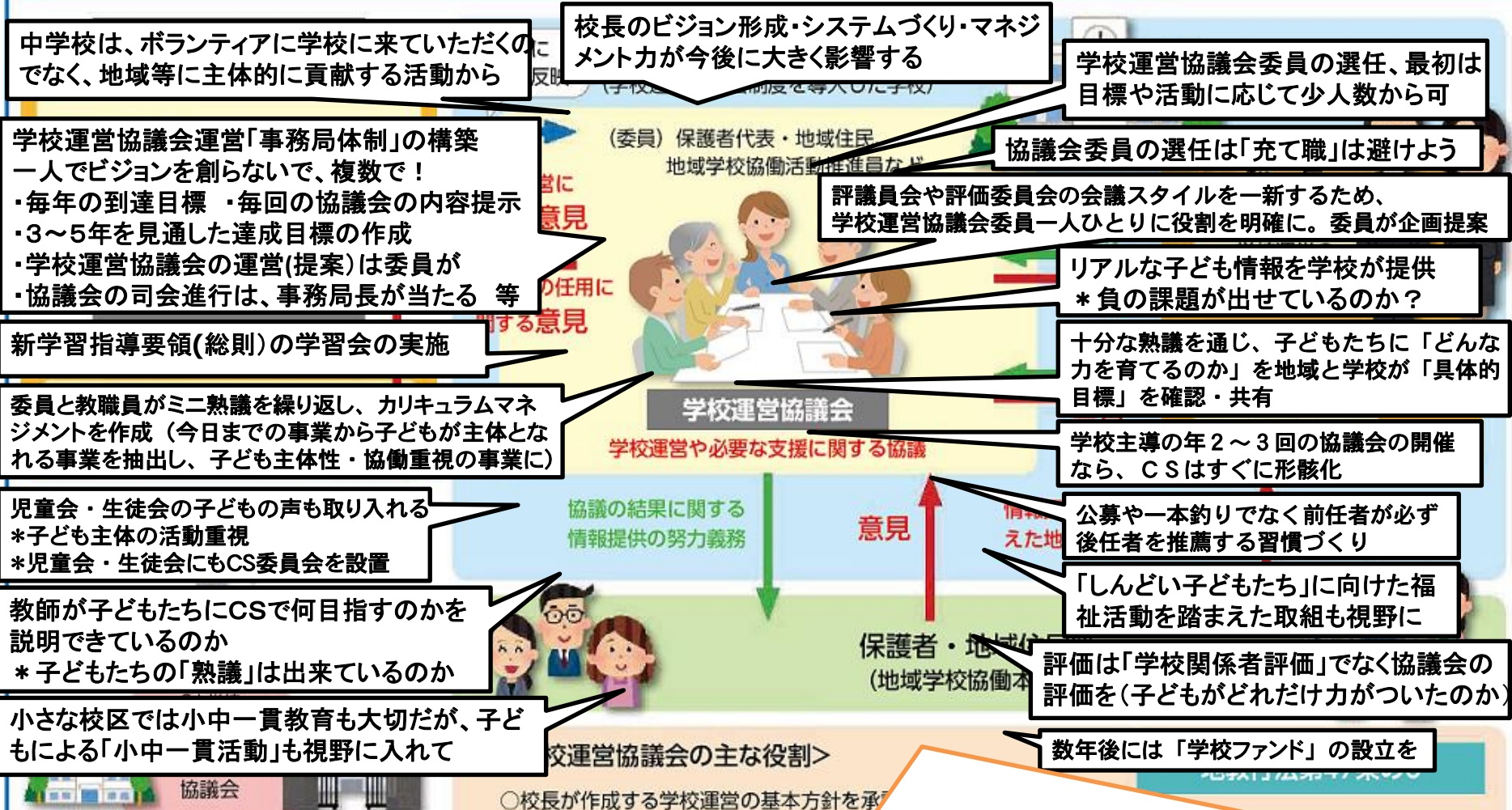
マネジメントの視点で



どう実践・評価・改善していくか？（事例考察）【プロセスを大切に！！】
学校のカリキュラム・マネジメントや、自治体・団体等の再構築に向けたマネジメント

これからの持続可能な学校運営協議会のあり方を考える 学校・地域・行政のマネジメント

コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)の仕組み



行政は、縦割りを解消し、柔軟性を持って学校運営協議会のニーズに応えられる体制づくりを！
CS設置規則、協議会委員・コーディネーター・教職員・ボランティア等の研修、交流、ボランティア表彰規定、等

今後、社会において求められる能力

参考：学習指導要領改訂における3つの視点

- 社会の激しい変化の中でも、何が重要かを「**主体的に判断**」できること
- 多様な人々と「**協働**」していくことができること
- 新たな価値を「**創造**」していくとともに、新たな問題の「**発見・解決**」につなげていくことができること

子どもにつけたい力のヒント

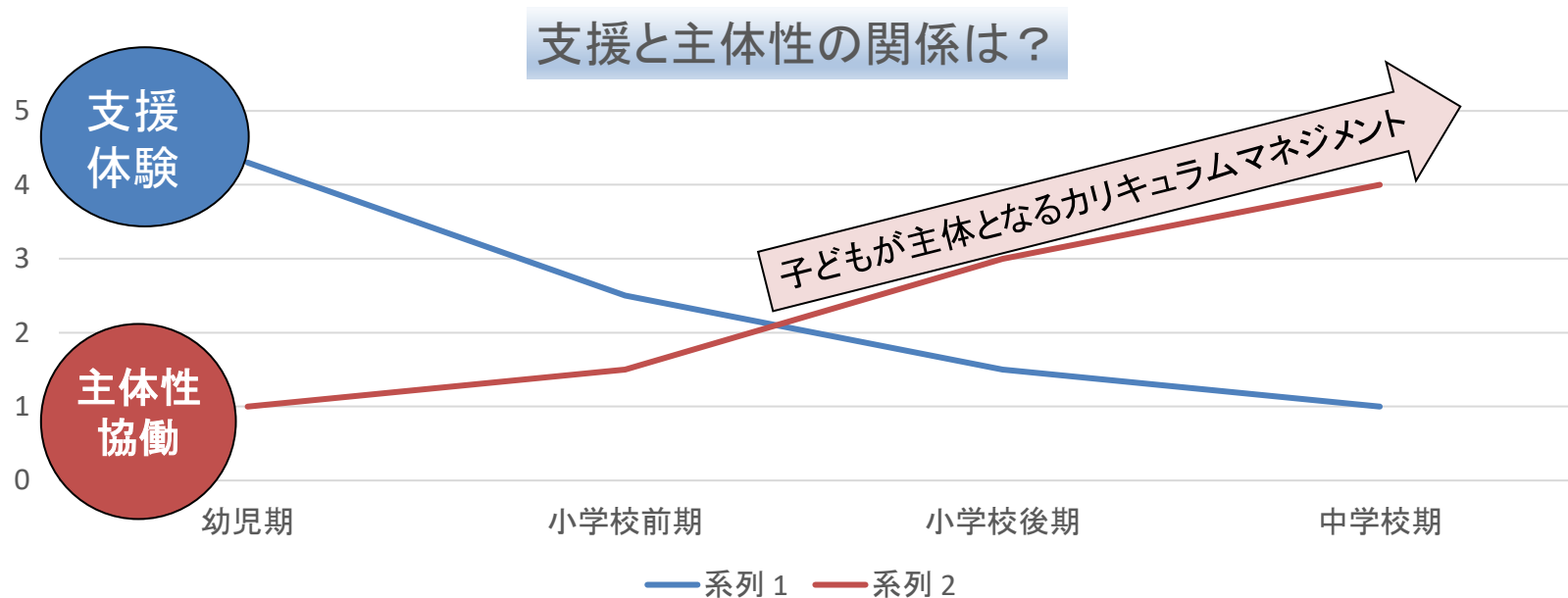
○主体性 ○集団自治力 ○協調性 ○社会性
○自己有用感の育成 ○地域貢献・奉仕の志 ○非認知能力 等

新指導要領がめざす「主体性」とは

- 「自主性」とは、他人からの干渉や保護を受けず、独立してことを行うこと。もう少し噛み砕いて説明すると、自主性は単純に「やるべきこと」は明確になっていて、その行動を人に言われる前に率先して自らやることである。
 - * 学校での子どもの活動は、大半が教育課程や教師のプログラムで動く自主性でしかない
- 「主体性」とは、様々な状況下においても自分の意志や判断で行動すること。つまり「主体性」は、何をやるかは決まっていない状況でも自分で考えて、判断し行動することになる。主体的な人とは「目的は何かを徹底して明確にし、それを満たすために何をするかを自分で考え、リスクを承知で行動すること」ができる人。
 - * 子どもの主体性と協働。委員・ボランティア等の主体性と協働は、地域リソースに視点を向けると学校より多くあることに気づく

発達段階による支援と主体的な活動を調整

一つの事業で、副次的教育効果を期待する感覚は終わろう！！
* 多くの人に参加した！子どもが喜んだ！等の評価で終わるな！！



子どもの「主体性」と「協働」重視！

・ ・ 学びのピラミッド理論 ・ ・

- If I hear it, I forget it.

聞くだけでは、忘れる。 5%

- If I see it, I remember it.

見れば、記憶する。(VTR等) 10%～ 20%

- If I do it, I understand it.

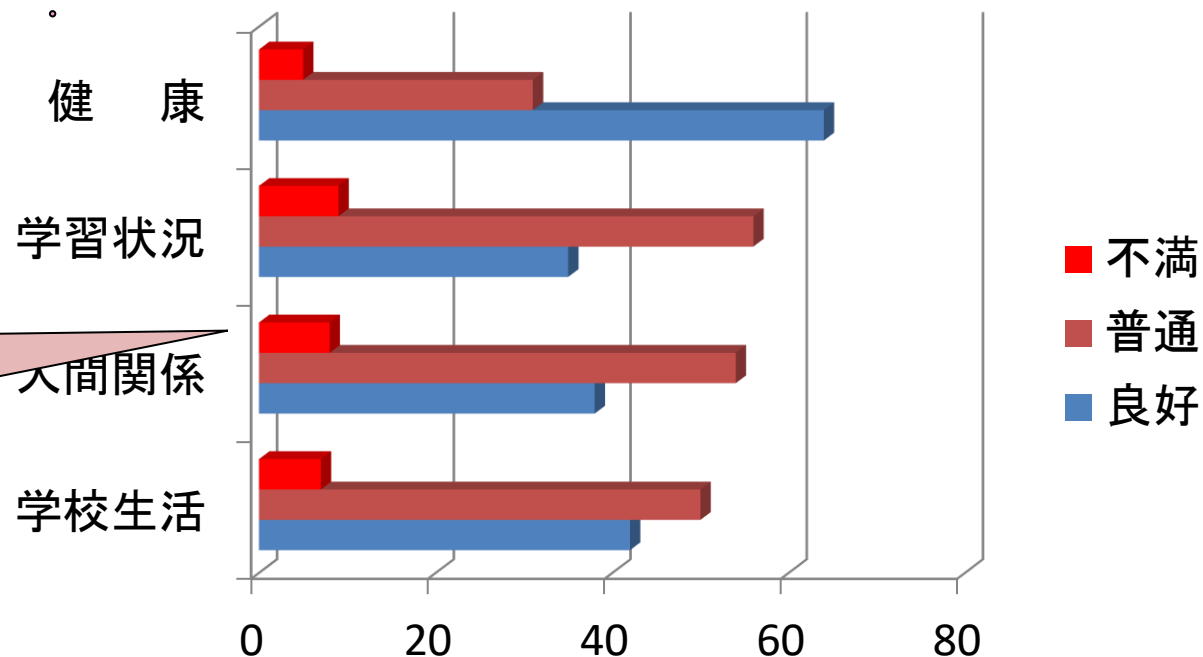
行動すれば、体得(理解)できる。75% 「地域学校協働活動」

- If I find(discover) it, I use it.

見つけた(主体的な行動から発見した)ことは、使いこなせる。90% 「コミュニティ・スクール」

細やかなリサーチ(調査)と視点を少し変えた評価も必要！

私たち大人の目のつけどころを少し変える



出来たことも大切だが、「不満」な子どもたちに視点を当て取り組む

特別支援ボランティア(子どもを看取る力、感性の豊かなボランティアを抽出)

これからの時代、コーディネーターの育成は必要不可欠
・コーディネーターに、社会教育主事資格や社会教育士の資格を
考える行政も出てきた

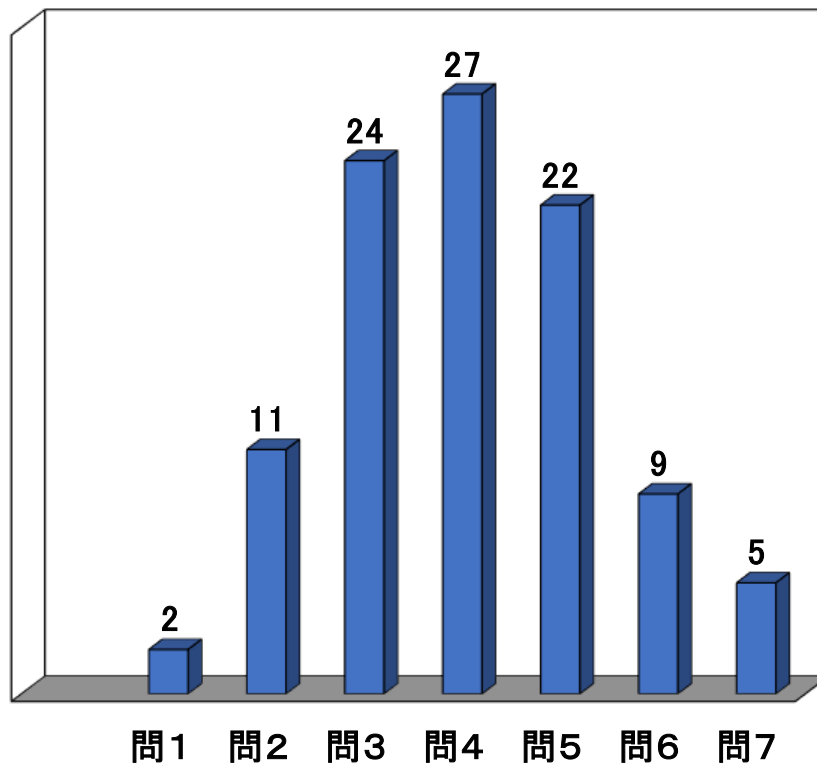
現不登校の子どもたちは専門的機関の対応も必要であるが、不登校予備軍の子どもたちへの対応で、不登校対策も可能



特別支援は、専門家に依頼すべき？ とんでもない！
管理職・担当者の「受容力」「託す力量」がなければ成り立たない。

学校運営協議会による調査(リサーチ)

家庭での「積み上げ学習（宿題）」実態アンケートより



No	質 問 内 容
問1	塾に通わせているので十分である
問2	家庭でドリル学習等実施しているので十分である
問3	忙しくて見てやれていないが、子ども自身が努力している
問4	忙しくて見てやれていない
問5	ほとんど子ども任せである
問6	子ども任せで不安である
問7	その他(言っても勉強しない)

87%が不安！

家庭学習等の積み上げ支援

+

生活の安定・安心がなければ、学びは積み上がらない
福祉的な支援も考えるべき



学力の二極化をどう克服していくのか??

支援対象児

- * 家庭で学習環境がない子
- * 経済的に不安定で、学童保育所や塾等にも行けない子
- * 学習補充の必要な外国籍の子
- * 学習の二極化で底辺にいる子



地域の退職教職員

学習支援ボランティア

地域の大学生

地域の施設活用！ 退職教職員をリーダーとして！

こうした支援グループが
NPO化(自立)していくことと、その対応

子どもの学びの土台、生活を支えるために、 「福祉の視点」も踏まえた取組を

学習支援＋孤食・欠食・貧困児童を地域で支える（子ども食堂＋フードバンク）



コロナ禍等を踏まえ相対的貧困の課題を把握



フードバンクも
視野に入れて

現在では、不登校の子どものお迎えまで・・・

家庭と学校では掃除の仕方が違う！の意見から

1年生の掃除指導



ボランティアは、子どもがやるべき仕事は
教えても手伝いません！

地域のリソースを活かした カリキュラムマネジメント

- 子ども達によるPDCAの実践

「社会に開かれた教育課程」と カリキュラムマネジメント

- ①**目標達成に必要な内容の組織的配列**: 各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校の教育目標を踏まえた教科横断的な視点で、その目標達成に必要な教育の内容を組織的に配列する。
- ②**教育課程のPDCAサイクルの確立**: 教育内容の質の向上に向けて、子どもの姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立する。《サイクルの運用には、エビデンス(根拠データ)に基づく取組が定着するよう、検証に繋がるR《調査＝リサーチ》とそれに基づく策定の(改善)のV(方針＝ビジョン)を明確にすること》
- ③**地域の教育資源の活用**: 教育内容と教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源も含めて活用しながら効果的に組み合わせる。

教育課程は学校の責任で《経営》、カリキュラムマネジメントは地域と協働で《運営》

コミュニティ・スクールを理解して
もらうための子どもによる宣伝
及び、「子どもが企画者」

子どもたちのPDCAで 地域の一員として参画・貢献



「高齢者サロン」
と
「ホタルまつり」



社会に開かれた教育課程の実践



地域の見守りスマイルチュッピー 弁当配達プロジェクト



協働し、独居老人の地域の見守りを実施することで、人を知り、地域を知り、「おたがいさま」の街づくりにつなげる。

地域とのふれあいの中から生徒の自立につながることを目指す



中学生による地域学校協働活動 <地域編>



小学校低学年の子どもたちへの読み聞かせ



中主学区チュッピープロジェクト～子ども食堂おすそわけ会～



地域：街おこし、貧困世帯を救う

- 中学生の可能性に気づく

学校：社会に開かれた教育課程の実現

- 生徒の「何ができるか」「どう考え、行動するか」実践の場
- 教員の「学びはどう生きているのか」指導のふり返し



夏休み「店長修行」(就労体験6年)



理事の意見:子どもたちの夏休み40日×6年間=240日=1年間の授業日数
家庭の実態格差が、大きく子どもの学びに反映していることを踏まえ、
「子どもたちに地域で豊かな体験の場」づくりを！！(体験から～自主性～主体性へ)

コーナーの気づきS・企画P・実践D・評価(失敗も含む)
C・質の高い行動へA を子どもに託せたか？

子どもも自治の一員として まちづくりフェアーに参画



岩根小自主歌声グループ



クラブ活動の発表



たこ焼き店(わかばクラブ)



さくらクラブのお茶コーナー



地域交流写真展



子どもたちが指導員の制作コーナー

地域の実態に応じた「スクール・ファンドの創設」

「コミュニティ・スクール 支援委員会」

2010.3.12

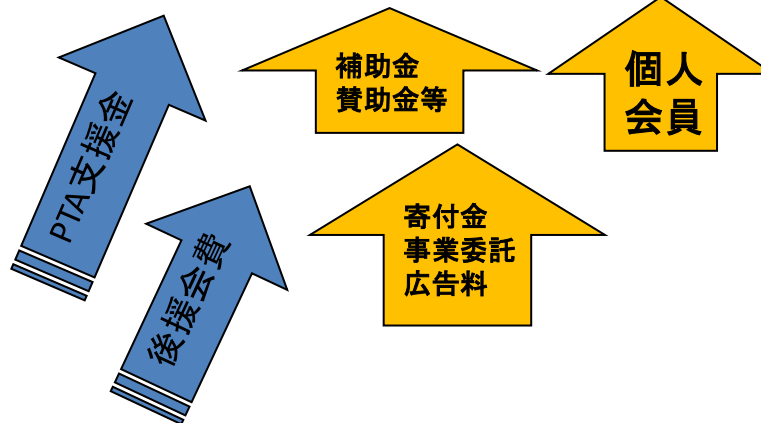
今後の行政構造や財政の
変化を見据えて

コミュニティ・スクール
支援委員会

区長会・後援会・同窓会・PTA・
・まちづくり協議会・民生委員会・
学校運営協議会・他

学校運営協議会

子どもの積み上げ学習の充実
ボランティアの負担の軽減
支援組織の経費支援
情報誌の発刊
事務局運営費
コーディネーター補助
その他 必要な事業支援



ご静聴ありがとうございました

支援や体験に終始せず
大人がプログラムした取組から、
子どもがPDCAを実施出来るCS体制に。